

自由民主党

衆議院議員 高木 啓

論文テーマ「国政への提言」

戦後から(保守合同から)現在まで、ほとんど一貫して政権を担ってきたわが党は、多くの国民の期待を集め平和と繁栄を享受できる国を創った。その実績は揺るぎないものであり、先人の英知と努力に心から敬意を表したい。

一方、昨今のわが国を取り巻く国際情勢は極めて厳しく、ロシアによるウクライナ侵略、北朝鮮による拉致・核・ミサイル、台湾有事の懸念など、直接わが国を存立の危機にさらす事態が起こらないとも限らない。引き続き平和で豊かな日本であり続けるために、いままさに正念場に差し掛かっているとさえ感じる。

私は平成3年、東京都北区議会議員に初当選、平成17年からは北区選出の東京都議会議員として、また平成29年から衆議院議員として、現在まで通算32年間、北区、東京都、そしてわが国の代表の一人として全力で働いてきた。昨年8月からは外務大臣政務官を拝命し、たくさんの外交的経験も積ませていただいた。

そうした経験を元にこれからのわが国と国政のあり方を展望すると、やはり民主政治の基本原則である「国民の支持を集めること」、そしてその力を背景として固い信念と的確な政策で、わが党が真の国民政党としてすべての国民を豊かにすることを通じて、国力を着実に上昇させていくことが必要と考える。

そのためには、まず「経済」。デフレからの完全な脱却は不可欠である。失われた30年と言われるバブル崩壊後のデフレ経済は、日本人の投資意欲やチャレンジ精神を失わせ、内向きの負のスパイラルが相対的な経済力の低下を引き起こし、存在感の

薄い国をつくってしまった。今日よりも明日は賃金が上がり、経済が成長し、国民全体に希望の光を当てることのできるマクロ経済政策こそ、いま必要である。その方策は、先般策定された「骨太方針 2023」にも書かれた「大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略」を一体的に進める、いわゆる『アベノミクス』の完遂に他ならない。

また、わが国が平和で安全でなければ、経済も福祉も教育も、すべての努力は意味をなさない。したがって、わが国が将来に渡って平和で安全な国であり続けるための努力は死活的に重要だ。

安保三文書(国家安全保障戦略・国家防衛戦略・防衛力整備計画)の改定は、わが国を取り巻く安全保障環境を考えた時、極めて重要な意味を持つ。平和国家への道のりは観念論では達成されず、現実を直視しその時々国際的情勢に的確に対応して初めて実現する。したがって、抑止力の強化を中心に、安保三文書改定は岸田政権による画期的な成果である。

その成果に最大限の効果を持たせるために、私は防衛力と表裏の関係にある、外交力の強化が不可欠と考える。国家安全保障の強化は、防衛力とともに外交力なくしてなし得ない。つまり、有事の備えを強化しつつ、有事を未然に防ぐ努力を同時に行うことが、政治の意思として必要なのだ。安保三文書改定が実現し、今後の防衛予算は年々伸びることが約束された。今後5年間で43兆円という数字が示され、令和5年度予算で約6.8兆円の防衛予算は今後7~9兆円程度に伸びていくと予想される。一方、外交力に係る予算は、ここ数年、補正予算を含めて8500億円前後で推移していたが、令和5年度は当初と補正合わせて、この20年で初めて1兆円を超えた。その

伸びの太宗はウクライナ支援、グローバルサウスへの働きかけ等であるが、今後は長期的な視点に立って、在外公館の充実や人材の育成と確保など、一層の外交力強化のための拡充が行われるべきであろう。外交力強化は、わが国を護るための最重要テーマの一つなのだ。

外務大臣政務官として既に 15 カ国以上訪れ、訪問地で必ず感じるのは、日本人の技術力、勤勉性、誠実性、正義感等に対する敬意と期待が非常に高いことだ。私は先人が努力して築いたそのようなレガシーを、これから更に磨いてわが国の価値を高めたい。そのためには国内政治をしっかりと安定させ、国際社会の中で顔の見える国をつくらなければならない。その中心を担うのは、わが党、自由民主党以外にあり得ないのだ。

私はそうした思いでこの間、政治に取り組み、昨年からは外務大臣政務官としての公務にも邁進してきた。東京 12 区の候補者公募にあたり、長年にわたる地域活動で地元を誰よりも熟知し、さらに国家と国民のために、この地で最も多くの有権者の信認を集め働くことができるのは、私が最適任者だと自負している。去る 6 月 25 日の自民党北区総支部役員総務合同会議でも、総支部として全会一致で、この度の東京 12 区候補者公募に「衆議院議員高木啓 自民党北区総支部長」の推薦を決定していただいた。ご選任いただければ、党活動とともに一層力強く、地元と国家と国民のための努力をお誓いする。